

ホノルルに行ったらアラモアナショッピングセンターに足を伸ばして、屋上から北をみていただきたい。日本の城をかたどった建物が見えるはずだ。マキキ聖城教会という由緒ある日系人主体のキリスト教会で、一見の価値がある。



外国人はよく悪徳タクシーのカモになる。ある程度英語ができると、悪用してもうけようという運転手が出る傾向がある。

その後外国のタクシーに乗るときは、地図を見せびらかすことにしている。イスラエルでは、それでも別方向に走りだした。「道が違う。私は地図と磁石を持っている」といったら、運転手曰く。「あなたは悪い人だ」。

そのあと運転しながら、「私はまずしい、子供がいる」「日本人は金持ちだ」などという。結局チップをはずんだから、遠回りと同じくらいかかったかもしれない。

同じ発音のことばができて、誤解を起こす現象を**同音衝突**という。同じ文脈で使われるものは、ほかの言い方に言い換えられる。「市立」と「私立」、「科学」と「化学」などである。同音衝突が起こったときに、片方がタブー語だと**まともな方が消える**という例は、言語学の古典にも書いてある。AVもその例のはずだ。

そういえば電話の「もしもし」も **washing machine** (洗濯機) というところと通じるそうである。

同様に英語で「かゆい・ひざ・息子・彼女・行く・岩・乳母・ハッチ・行列・ユダヤ人」と暗記すると、日本語の数を覚えられる。itch, knee, son, she, go, rock, nanna, hatch, queue, Jew である。

INOUE という名前は、母音が三つ続くので、英語国民には発音しにくい。電車の中でふと思いついて、**In no way** とあてることにした。「決して」という意味である。

イギリスの大学にいたときに、さらに名前の **Fumio** の方も思いついて、**Fool me oh** とした。子音のエルはどうせあまり響かない。合わせて **Fool me, oh, In no way!** 「決して私をバカにしないで」という文になる。研究室のドアに **Fumio INOUE** と並べて書いておいたら、あるときドアをノックする人がいた。何でも、面白い名前なので、顔を見たかったのだそうだ。

## 卓話

限られた集団でのみ使う、集団語の一種だ。

かつて某民放ラジオで、ことばについての連続番組を録音したときのこと。サービスのつもりで、とっておきのジョークを言った。スタジオのガラスを隔ててちらりと見ると、録音係はほほえんでいる。しかし、そばのプロデューサーはにこりもしない。録音が終わって、スタジ

オから出ると、プロデューサーが渋い顔で言った。「大学教授のジョークなんか、だれも期待していませんよ」。

さて某大学には、泣く子も黙る（あるいは黙っている子も泣き出す？）という女性運動の闘士がいる。その人とエレベーターの中で一緒になったある教師は、客観的にいうのならいいだろうと思って、「髪型が変わりましたね」と声をかけたそうである。そしたら彼女、ふんと横を向いて、答えたそうである。

「え、顔は変わりませんがね」。

ユーモアとウイットの国、イギリスでは、広告に面白いものがある。かつて **No heat is cheaper than oil heat.** というのがあったそうだ。「灯油暖房より安い暖房はない」の意味だ。ただし、もう一つの意味にもとれる。「無暖房は灯油暖房より安い」である。論理的にはあたりまえである。これは灯油の売り上げを減らすわけだから、わざわざ広告するはずがない。従って、広告としては最初の意味にしかとれない。

別の意味なのに同じ言い方になるのは、単語なら「同音語」と呼ぶが、こんなふうに、もつと長くて文単位になると「同型文」という。

中国での電話のかけ方は日本と違うと聞いて、留学生に尋ねてみた。相手が出たら「あなた誰？」と聞くのだそうだ。電話機が全家庭には普及していないので、他の家の電話を使う場合もあり、誰が出ているか分からないからだそうだ。

この話を雑談として話題にしたら、ある日本人が「やっと分かった」といって、体験談を話してくれた。中国の留学生から電話があつて、母親が出た。相手が「あなたは誰ですか？」と言ったので母親が激怒したとのことだった。「自分でかけておいて『誰』ってことではないでしょ！ 自分で名乗るのが当たり前でしょ！」と怒ったとか。

そういえば夫婦喧嘩の三つのタブーというのを聞いたことがある。「相手の稼ぎをけなすな、学歴をくらべるな、自分の親族の自慢をするな」だそうである。

エスカーション

-----

- ・エクスカーション【excursion】1. 団体の遊覧旅行。小旅行。2. 共同で行う野外調査。
- ・エクスカーションとは、従来の見学会や視察とは異なり、訪れた場所で案内人の解説に耳を傾けながら、参加者も意見を交わし、地域の自然や歴史、文化と社会資本の果たす役割などを学び考え、理解を深めている

ただ「体験型の見学会」のことです。

新聞に、「小論文、コンピューターで自動採点」という記事が載っていた。大学入試センター石岡恒憲助教授が中心になって開発してきたシステムで「Jess」（ジエス＝Japanese essay scoring system）というらしい。英語では「エッセイ」の評価だ。ホームページのアドレスが載っていたので、さっそく試してみた。<http://coca.rd.dnc.ac.jp/jess>

出版社に渡したばかりの「ことばの散歩道」の文である。エッセイの題名を入試小論文の質問文とみなして、本文を貼りこんだら、すぐに結果が出た。10点満点で5.5点。低い。

「修辞」で「漢字の使用がやや少ない」「語彙の多様性がやや不足」「長くて難しい語がやや少ない」という評価がついている。以前に日本語読解学習支援システム「リーディングチュウ太」にこのコラムの文章をかけた。難易度は「ふつう」が多いと分かった。

それ以来、留学生にも分かってもらえるように、難しい漢字や単語を使わないようにしていたが、裏目に出た。入試の小論文としては、失格らしい。

日本語エッセイを処理する唯一の採点評価システムである Jess

[coca.rd.dnc.ac.jp](http://coca.rd.dnc.ac.jp) のサーバーの DNS アドレスが見つかりませんでした。

<https://www.cret.or.jp/files/ea9d28ab0986f97bdf33db02f943871f.pdf>

石岡いしおか恒つね憲のり

<https://www.cret.or.jp/files/09e3dbec973cd25ae72b4218816245f7.pdf>

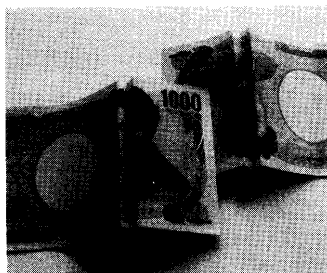
Jess 日本語小論文 評価採点システム

ふと思いついて、紙に能面らしきものを描いた。

眉、目、口を五本の横線で描き、真ん中に縦棒で鼻を入れた。二つの目を山に折り、真ん中の鼻の部分の谷に折った。縦の三本の折り目で、紙がなだらかな M 字型に盛り上がった。

垂直に持つと無表情だが、下に向けると悲しみの表情になり、上に向けると喜びの表情になるはずだ。「能面でもこの効果を使う。ことばが違って、人々の感情は共通だ。」と言いながら、生徒と親の前で紙を上下に傾けた。感嘆のため息がもれたから、通じたいらしい。

実は、昔学生に教えてもらったお札の遊びの応用である。二つの目を山に折り、鼻を谷に折る。以前の淑石の一〇〇〇円札は効果的だった。世界各地の紙幣で可能で、旅先でのなぐさみ、時間つぶしにいい。



ΟΔΟΣ オドス「通り」

交ぜ書き「ろっ骨」「すい臓」